

てい・てい 亭亭

【意味】『形動タリ』

①高くそびえたつさま。

*本朝文粹・八・避暑対水石詩序〈大江匡衡〉「誰問月燈閣之亭亭。昇降目眩」

*読本・椿説弓張月・前・四回「前には怪松屈曲として枝をまじへ、霞を籠め、雲に聳き、亭々（テイテイ）としていくばくの高さをしらず」

*張衡・西京賦「干_二雲霧_一而上達、状亭亭以苕苕」

②遠くはるかなさま。遠方に浮かんで見えるさま。遠く回るさま。

*文華秀麗集・下・和滋内史秋月歌〈桑原腹赤〉「亭亭光自_二嶺頭_一来、漸入_二高楼_一正徘徊」

*浄瑠璃・南蛮鉄後藤目貫・四「門押開き洒掃し、物見の玉だれ亭々と色をこめたる琴_ご味線」

*玉山先生詩集・六・夜夜曲「夜夜待_レ郎郎不_レ来、亭亭秋月照_二羅帷_一」

*司馬相如・長門賦「澹_レ偃蹇而待_レ曙兮、荒_レ亭亭而復明」

【参照辞書辞典】『日本国語大辞典』 小学館